

## 6-2. スーパーボンドの臨床応用例

### 6. エクストルージョン

#### 臨床例6-1 最後方歯のエクストルージョン1



①2004年5月、初診時。[6]のクラウンが脱離。感染根管処置後の状態。



②縁下カリエスが進行して髄床底は菲薄であったが、歯根膜附着量は保存可能な状態であった。歯根分割後、エクストルージョンを行い保存することにした。



③[4]、[5]をアンカーとし、エクステンションバーを付与した装置をスーパーボンドで接着した。メタルクラウンはV-プライマーにて前処理。



④分割根には矯正用ワイヤーを用いたフックをカルボセメントにて合着。分割根の間隙を広げるようにエラストック糸で牽引する。



⑤牽引後6週間で予定の位置に挺出した。歯周組織の安定を待つため、6週間固定した状態。



⑥6週間固定後、装置を撤去した状態。歯根間中隔の骨の膨隆と角化歯肉の増加が認められる。



⑦同咬合面観。Apically Flap前の状態。



⑧F-ope後、根管充填を行い鑄造ポストコアをスーパーボンドでセットし、支台歯の概形成が終了した状態。近遠心根の離開とボーンレベルリングに注目する。



⑨プロビジョナルにて歯周組織の安定を待つ。



⑩2004年12月治療終了。[567]の連結クラウンをスーパーボンドで装着した状態。

#### 臨床例6-2 移植歯の固定とエクストルージョン



①1990年11月、[6]の欠損補綴を希望し来院。欠損部の骨は大きく萎縮していた。



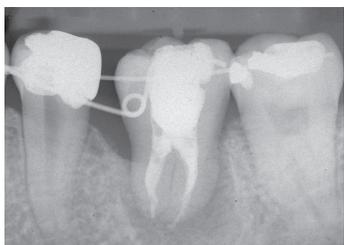
②移植6週間後の状態。[8]を[6]部に意図的に傾斜埋入し、スーパーボンドと矯正用角ワイヤーで固定した。移植歯歯根膜の喪失を極力防ぐため、血液供給が十分に受けられるよう意図的に傾斜させている。



③移植6週間後のデンタルX線像。



④スーパーボンドにてブラケット装着し、移植12週間後エクストルージョン終了時。



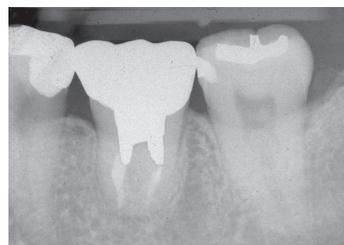
⑤エクストルージョン終了時のデンタルX線像。



⑥移植2年半後の頬側面観。



⑦同デンタルX線像。エクストルージョンにより歯槽骨頂レベルの改善が見られる。



⑧移植8年半後のデンタルX線像。移植歯は正常に機能し、アンキロシスは起こしていない。

臨床例6-3 最後方歯のエクストルージョン2



①2002年3月初診。45重度の根面カリエスのため抜歯予定であるが、7をエクストルージョンするために、抜歯時期を遅らせることとした。



②45にエクストルージョンするための装置をスーパーボンドで接着する。



③同じく咬合面観。被着面は金属と陶材が混合しているため、ポーセレンライナーMとVプライマーで前処理した。



④7のエクストルージョン終了後、F-opeを行いスーパーボンドにて鑄造ポストコアを装着後、支台形成を行った状態。



⑤12と7をアンカーにして456部の骨形態を改善するため、45をエクストルージョンした状態。



⑥45のエクストルージョンにより垂直的骨形態が整ったため、45を抜歯した。



⑦左上口蓋側に埋伏していた3を移植。移植後1ヶ月半。



⑧移植後スーパーボンドで鑄造ポストコアを装着し、支台形成された3。欠損部の垂直的骨形態は改善されたが、水平的には萎縮した状態。456と7頬側には角化歯肉が不足している。



⑨欠損部顎堤形態と角化歯肉幅改善のため、ダブルフラップを開けBone ridge Augmentationと遊離歯肉移植 (FGG) を同時に行う。



⑩治療後の欠損部の状態。欠損部顎堤の状態と7頬側の角化歯肉幅は改善された。



⑪治療終了後。